

古典的ケース CASE8

1867 年、5 月、ある女性が私のオフィスを相談と治療のため訪ねて来た。
そして、以下の経緯を話した。

38 歳、背が高く細身、黒い髪と目。

胆汁質で神経質。結婚して 14 年、その間一度も妊娠しなかった（結婚前は強健な若い女性であった）。

しばらくの結婚生活後、彼女の生活はおかしくなっていた。

一番初めに起こった不調のひとつは、不規則で量の少ない月経で、それと入れ替わりにおりものが続いてきた。この状態は彼女が私に観察されるまで続いた。
今現在も、月経期間はまださらにまばらで、月経の無い間は緑色のおりものがあつた。

吐き気、食べ物のことを考えると悪化。

頻繁に尿意を催す。

腰部の引っ張られるような痛み。

顔面の左側の痛みに悩まされている間、その長引く病のせいで、泣きたくなり、この結婚生活は空虚だと思ふようになった。

通常医療（アロパシー）が効かなかったため、彼女は、ホメオパシーに慰めと救済を求めてきたのだった。

まず始めに、この問題のケースについて、より完全に熟考出来るまでの間、乳糖を与えた。そして、次の診察で Rx30Cを与え、週に 2 回摂らせた。

いつもの月経期間が近づいてきていたが、彼女が摂った1包はこの点においてはよりよい変化があつた。

月経はよくなったが、まだきちんとした標準は欠いていて、おりものは減少してきた。
3 ヶ月の間この患者の治療は続けられた。

2、3 ヶ月彼女と会っていなかったが、診察料の勘定を払いに来たとき、彼女の絶叫は「なぜなの！先生、私は健康になって、妊娠したわ」